資 料 3

まち・ひと・しごと創生法　地方創生

令和5年度

地方創生応援税制
（企業版ふるさと納税）

取組事業

鈴　鹿　市

１　制度概要・経緯

地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について法人関係税を税額控除する制度であり、寄附額に対し、最大９割の税額控除が可能となります。
令和２年度に地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る国の制度が改正されたことに伴い、地方版総合戦略を基にした計画を策定することで、幅広く市の事業に企業からの寄附金を充当できるようになりました。本市でも令和３年７月９日に国から計画の認定を受け、企業からの寄附による事業を実施しています。
なお、この制度を利用できる企業は市外に本社を置く企業に限られます。

２　令和５年度の取組

鈴鹿市地方創生会議での意見を受けて、令和５年度においては、庁内から魅力的な事業案を募る「あなたの提案をカタチに」プロジェクトを実施し、７所属から８事業の提案を受け付けました。これらの提案事業について、企業に共感いただけるように、市ウェブサイトへ寄附を活用する内容、企業のベネフィット、目標とする寄附額、関連するSDGsの取組を掲載するほか、全庁的に活用できるパンフレットを作成し、市外に拠点を置く企業に対し、PRを行いました。

３　令和５年度における寄附対象事業

令和５年度実施事業

(1)	**事　業**	食品ロス削減推進事業
	担当課	環境政策課
	実施した事業内容	当市においては、人口減少社会に適応した安全・安心なまちづくりを推進させるために、「食品ロスゼロのまち　すずか」を目指し、家庭で排出される食品ロスの削減推進を目的として、『食品ロスゼロチャレンジ！』という市民参加型（モニター）の取組を実施しております。 本取組に参加された市民には、参加年数に応じて「食品ロスゼロマイスター」の称号と参加賞を進呈し、寄附は本取組の予算として活用いたしました。
	実施事業の効果	「食品ロスゼロチャレンジ！」に、市民の298世帯の方がモニターとして参加いただき、寄附の活用により、参加された市民の食品ロス削減に対する意識を更に高めることができ、また、その他の市民の方に対しても、本取組の内容や結果を広報等で広くお知らせすることで、食品ロス削減の大切さをお伝えすることができました。
	寄　附　額　（円）	200,000

令和6年度実施予定事業

寄附件数のうち2件は、令和5年度に新たに設置した「鈴鹿市企業版ふるさと納税基金」に積み立てを行い、令和6年度の事業として、基金からの繰り入れを行い、実施を予定しています。

(2)	事　業	すずか未来デザインLABO
	担当課	総合政策課
	実施予定の事業内容	まちづくりや地方創生に関心のある若者、同世代の仲間をつくり新しいことにチャレンジしたい若者を募集し、まちをより良くするためのアイデアを共創するため、高等専門学校の学生を対象にハッカソンを実施予定です。また、令和7年度以降に実装が見込めるアイデアの事業化を検討します。
	実施予定事業の効果（見込み）	若者世代の新たな発想から生まれたアイデアを市の政策の参考にするとともに、若者世代の積極的な参画による市政の推進を目指します。 また、学びの場や交流の機会を創出することで、重要業績評価指数（KPI）となる「社会動態による人口動態（2023年度目標値300人）」の達成に向け、交流人口や関係人口の創出も期待できます。
	寄　附　額　（円）	1,000,000
(3)	事　業	鈴鹿市雇用促進プロジェクト
	担当課	産業政策課
	実施予定の事業内容	本市では、市内企業や関係機関と連携し「チーム鈴鹿」で「鈴鹿deはたらっこ！プロジェクト」を創設し雇用促進事業に取り組んでいます。 このプロジェクトにおいて、高校生や大学生へのキャリア教育を行うことで、将来の本市への就労につなげるため、キャリアガイドブック等を作成し市内企業の魅力を発信するとともに市内企業や高校、県内大学等と連携を図り、学生のキャリア形成支援や就職活動に有益な取り組みを進めます。
	実施予定事業の効果（見込み）	キャリア教育の実施により、学生は自身のキャリアを考え、市内企業が選択肢に加わります。市内企業への就職は、重要業績評価指数（KPI）となる「企業立地等に伴う新たな雇用者数（累計）（2023年度目標値1,500人）」の達成に向け、若者を中心とした雇用者数の増加が期待できます。
	寄　附　額　（円）	非公表

4　総計

寄　附　総　額　（公表分のみ）			
令和3年度	令和4年度	令和5年度	単　位
1,100,000	1,000,000	1,200,000	円
寄　附　件　数（非公表分含む）			
令和3年度	令和4年度	令和5年度	単　位
4	2	3	件

5　重要業績評価指数（KPI）

事業実施のための地域再生計画である、鈴鹿市まち・ひと・しごと創生推進計画の重要業績評価指数（KPI）は、第2期鈴鹿市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標ごとに掲げる目標数値と同じです。

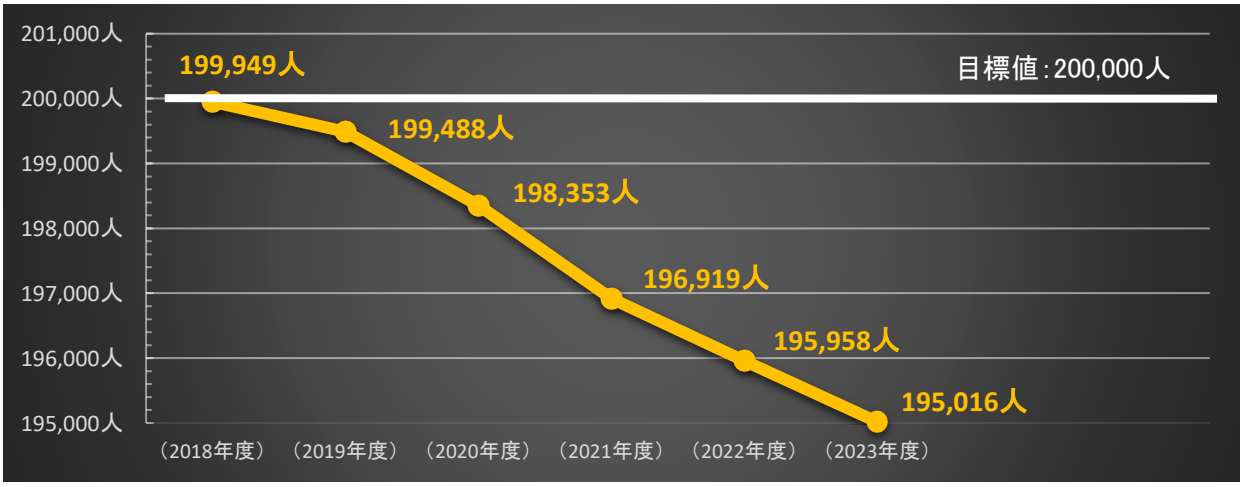
【目標数値】

■ 総人口[*1]（各年度3月末現在）

現状値	実績値					目標値
（2018年度）	（2019年度）	（2020年度）	（2021年度）	（2022年度）	（2023年度）	（2023年度）
199,949人	199,488人	198,353人	196,919人	195,958人	195,016人	200,000人

※現状値及び実績値の年度は、数値測定年度

＊1 住民基本台帳に基づく行政区域内人口のことであり、日本人人口と外国人人口の合計



6　全体評価

事業の評価	令和5年度に実施した事業は1件で、人口減少社会に適応した安全・安心なまちづくりの推進事業となり、関連するKPIである「総人口」は、令和5年度の目標値200,000人に対し、実績値195,016人で、自然動態による人口減少が進んだ結果となり、さらなる取組の強化が必要となります。 今後の課題として、企業版ふるさと納税をより多くの企業に活用していただくために、より魅力的な事業案や本市の魅力をPRし、実施する事業に共感いただくことが課題であるため、より一層、魅力的な事業案の掘り起こしや情報発信の方法が重要となります。
今後の取組方針	寄附に協力いただけるように、多様な分野の魅力的な事業案を庁内で募り、事業案を増やすことで、各企業の興味を惹くことに加え、個々の事業案により本市の魅力を伝えていきます。 本社が市外にある企業への積極的な情報発信としては、企業版ふるさと納税の制度概要や、庁内から提案のあった事業、手続きの流れ等を記載したパンフレットを活用し、引き続き、市公式ウェブサイトでの公表を行うほか、各部局において、企業を訪問する場合などを提案の機会と捉え、より積極的な働きかけを行うことや、郵送物にチラシを同封し、個々の企業への働きかけを行うことで、地方創生応援税制の活用促進を図ります。

（参考）令和5年度の取組　提案事業一覧

(1)	事　業	すずか未来デザインLABO
	担当課	総合政策課
	事業概要	人口減少が加速する中、人口を維持するためには、まちの将来を担う若者の流出を防ぐ必要があります。若者が住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めるため、本市に関わる若者と鈴鹿市の未来を描き、より良いまちにするためのアイデアを共創します。 本事業の実施により、若者世代の新たな発想から生まれたアイデアを市の政策の参考にするとともに、若者世代の学びの場や交流の機会を創出することで、人材育成や地域への定住、UJターンにつながると期待できます。
(2)	事　業	～誰一人取り残さない、災害対応の実現に向けて～ 災害時多言語コールセンターの導入
	担当課	市民対話課
	事業概要	本市の外国人人口は、増加傾向にあり、令和5年6月末時点で9,425人（総人口の4.81％）に上っています。平時から通訳職員の配置や多言語通訳タブレット等の活用により、外国人市民へ日本人市民と差異のない行政サービスを提供しています。 多文化共生社会の更なる推進に向け、平時のみならず、今後発生が予想される南海トラフ地震や気象災害などの有事の際にも、外国人市民の多種多様なニーズに応えられるよう、市内各所、各窓口で「言葉の壁」を解消した母語での行政対応を実施します。
(3)	事　業	～「ろすのん」の笑顔が伝える　ご飯の大切さ～ 子どもの食ロス削減事業　in　鈴鹿
	担当課	環境政策課
	事業概要	本市では、カーボンニュートラル社会の実現や循環型社会を構築するために、食品ロス削減に積極的に取り組んでおり、令和6年度から、新たに次年度から小学生になる「5歳の児童とその保護者」を対象に、「食品ロスの削減」を実践できる事業を実施します。 対象児童が、毎日の朝食、夕食を残さず食べ、食品ロスが発生しなかったらシールを貼り、30個シールを貼ることができたら、特製スプーン（メッセージカード付）を贈呈し、子どもたちに食の大切さへの意識付けを図ります。
(4)	事　業	Ecoステーション　～処理困難物一斉収集の日～
	担当課	廃棄物対策課
	事業概要	ごみの適正処理の推進及び不法投棄対策を目的に、市で「処理困難物」として指定し、通常、市のごみ処理施設で受入れを行っていない「自動車用タイヤ」「消火器」「エンジンオイル」「プロパンガスボンベ」などを無償で回収するEcoステーションを実施します。 同時に、家電4品目（テレビ、エアコン、洗濯機、冷蔵庫・冷凍庫）の有料回収受付も実施し、購入から処分までの適切な過程を周知することで、市内全域における不法投棄の減少につなげます。

（参考）令和5年度の取組　提案事業一覧

(5)	事　業	『さぁ、きっともっと鈴鹿。』で子育て 「すずっこまんなかプロジェクト！」
	担当課	子ども政策課
	事業概要	「すずっこまんなかプロジェクト」とは、本市の未来を担う子どもたちの健やかな育ちを確保するため、子どもや保護者の声に耳を傾け、その声を「まんなか」に、市のアクションにつなげる取組です。 本プロジェクトでは、子どもや保護者が相談できる場所や地域と関わる機会を確保することで、子育て世帯の声を反映しながら、地域社会全体で子育てを支える仕組みづくりや、妊娠・出産・子育てにおける途切れのない支援を強化します。 子どもも保護者も地域の人も、「わくわくする」「未来に期待できる」、そんなアクションを展開し、鈴鹿での子育て環境をより良いものにしていきます。
(6)	事　業	障がい者の社会参加応援プロジェクト （音声化のための環境整備事業）
	担当課	障がい福祉課
	事業概要	本市では、音訳ボランティアグループの協力により、希望者へ「声の広報すずか」を配付し、視覚障がい者の方が自治体の発信する情報を取得できるよう取り組んでいます。 現在使用している録音室の防音性が低く、作業に支障をきたしているため、録音環境を整備することで、行政情報を速やかに音声化し、障がい者の方の情報の取得利用を図り、社会参加を促進します。
(7)	事　業	鈴鹿市雇用促進プロジェクト
	担当課	産業政策課
	事業概要	次世代を担う若者を中心に女性やシニア、障がい者、外国人など年齢や性別、ライフステージに関わりなく求職者と企業をマッチングする取組です。 魅力あふれる市内企業の仕事内容や最新情報を伝え、優れた人材を市内企業への就職につなげるとともに、就労を希望するすべての人が能力を活かしながら活躍できる場の提供を進めていきます。
(8)	事　業	ものづくり企業活性化プロジェクト（人材育成編）
	担当課	産業政策課
	事業概要	ものづくり産業支援センターでは、4月初旬に市内中小製造企業の新入社員等を対象とした「ベーシック研修」を3日間実施しています。 ものづくり人材の人材不足が深刻化する中、人材育成研修の一環として、共通の仲間づくりを推進するような、「ベーシック研修プラス」を開催することで、若年層のものづくり企業への定着の一助になればと考えています。

（参考）令和3年度における寄附対象事業

令和3年度実施事業

(1)	事　業	競争力のある産業の創造と雇用の創出事業
	担当課	産業政策課
	実施した事業内容	競争力のある産業の創造と雇用の創出を推進させるため、「鈴鹿市ものづくり産業支援センター」における研修環境を充実させることとし、ディスプレー、ディスプレースタンド、パソコン、スピーカー及びプロジェクターを購入しました。 これらを活用して、本年４月４日から６日までの３日間で、市内事業所向けに「人材育成　ベーシック研修」を行いました。 今後も、購入した機器を活用することにより、オンラインによる研修等の機会も確保しながら、市内企業の人材育成と発展につなげていきます。
	寄 附 額 （円）	非公表
(2)	事　業	魅力の創造と定住人口・交流人口の拡大事業
	担当課	地域資源活用課
	実施した事業内容	本市の魅力の創造と定住人口・交流人口を拡大させるため、地域資源の活用による集客・交流人口の増加を図ることとし、次の①と②の取組を実施しました。 これによりモータースポーツに関心のなかった層に対してもモータースポーツの持つ魅力をアピールすることができ、今後、当市で開催されるモータースポーツイベント等に訪れる人の増加が期待されます。 取組①モータースポーツ普及啓発事業 「2021F１GP世界紀行～世界からみるF１開催都市・鈴鹿～」企画展 2021年のF１グランプリの開催カレンダーに合わせて世界各国のサーキットをレーシングシミュレーター上で再現し、コロナ禍によりF１日本グランプリの開催が中止となった状況においても、F１グランプリ開催都市の魅力とサーキットの特色を触れられるようにし、世界に名だたる国際都市に並び立つ当市の価値に訴求する企画展を開催しました。 取組②eモータースポーツイベント 「SUZUKAe-SPORTSCHALLENGE RACE」への参戦と配信 仮想空間上でF１日本グランプリの舞台「鈴鹿サーキット国際レーシングコース」を再現したバーチャルレース「SUZUKAe-SPORTSCHALLENGERACE」に参戦し、その模様をYouTube配信することで、モータースポーツの新しい楽しみ方を提案しました。
	寄 附 額 （円）	1,000,000
(3)	事　業	人口減少社会に適応した安全・安心なまちづくり推進事業
	担当課	消防課
	実施した事業内容	人口減少社会に適応した安全・安心なまちづくりを推進するため、山岳救助資器材を充実させることとし、チェーンソー、チェーンソー保護具、カラビナ（登山で使用するジュラルミン製のリング）を購入しました。 これにより、山岳救助事案における人的、物的な被害の軽減を図るとともに、市民の安全・安心に役立てていきます。
	寄 附 額 （円）	100,000
(4)	事　業	人口減少社会に適応した安全・安心なまちづくり推進事業
	担当課	人権政策課
	実施した事業内容	人口減少社会に適応した安全・安心なまちづくりを推進させるために、地域の子どもたちの交流の拠点である「一ノ宮団地児童センター」の運動広場で使用している少年サッカー用ゴールが老朽化により使用できない状態にあったことから、新たに2台のゴールを購入しました。 これにより、同施設に訪れる児童や親子連れのほか、地域の少年サッカークラブのメンバー等がサッカーの練習や試合で使用していただいており、今後も安全・安心な住みよいまちづくりの推進に役立てていきます。
	寄 附 額 （円）	非公表

（参考）令和4年度における寄附対象事業

令和4年度実施事業

(1)	事　業	安心して妊娠・出産・子育てができる社会の実現事業
	担当課	教育支援課
	実施した事業内容	当市において不登校の未然防止・早期対応、及び不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立に向けた教育環境整備を推進させるために、市内小学校3校に設置している校内適応教室『ほっとルーム』の備品及び消耗品を購入しました。 具体的には、『ほっとルーム』で不登校傾向児童がソーシャルスキルトレーニングなどを少人数で行うための「ワークテーブル」、パーティションとホワイトボードを兼ね備えた「パーティションホワイトボード」などです。 これにより、様々な原因で教室に入ることのできない児童が、自分のペースで学習を進めることや、緊張せずのびのびと生活することができ、大変喜ばれております。今後も不登校児童への支援の充実に役立ててまいります。
	寄　附　額　（円）	非公表
(2)	事　業	安心して妊娠・出産・子育てができる社会の実現事業
	担当課	子ども家庭支援課
	実施した事業内容	集団への馴染みにくさや苦手さなど、発達に何らかの課題や心配をもつ児童に対して、友達と一緒に楽しむ体験や、体幹を鍛え姿勢保持や集中力向上に繋がる活動を実施するため、『すずっこスクエア』で使用する教具（室内用エアクライミング、大型絵本など）を購入しました。 購入した教具は、『すずっこスクエア』の活動メニューとして利用しています。室内用エアクライミングとメッシュトンネルを組み合わせたアスレチックや、大型絵本の読み聞かせを行い、児童に大変人気があります。 児童が集団生活で大切な力を育めるよう、引き続き『すずっこスクエア』でのソーシャルスキルトレーニング等に購入品を活用していきます。
	寄　附　額　（円）	1,000,000